

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音／ 高木大輔さん

酪農業に対する理解醸成活動報告

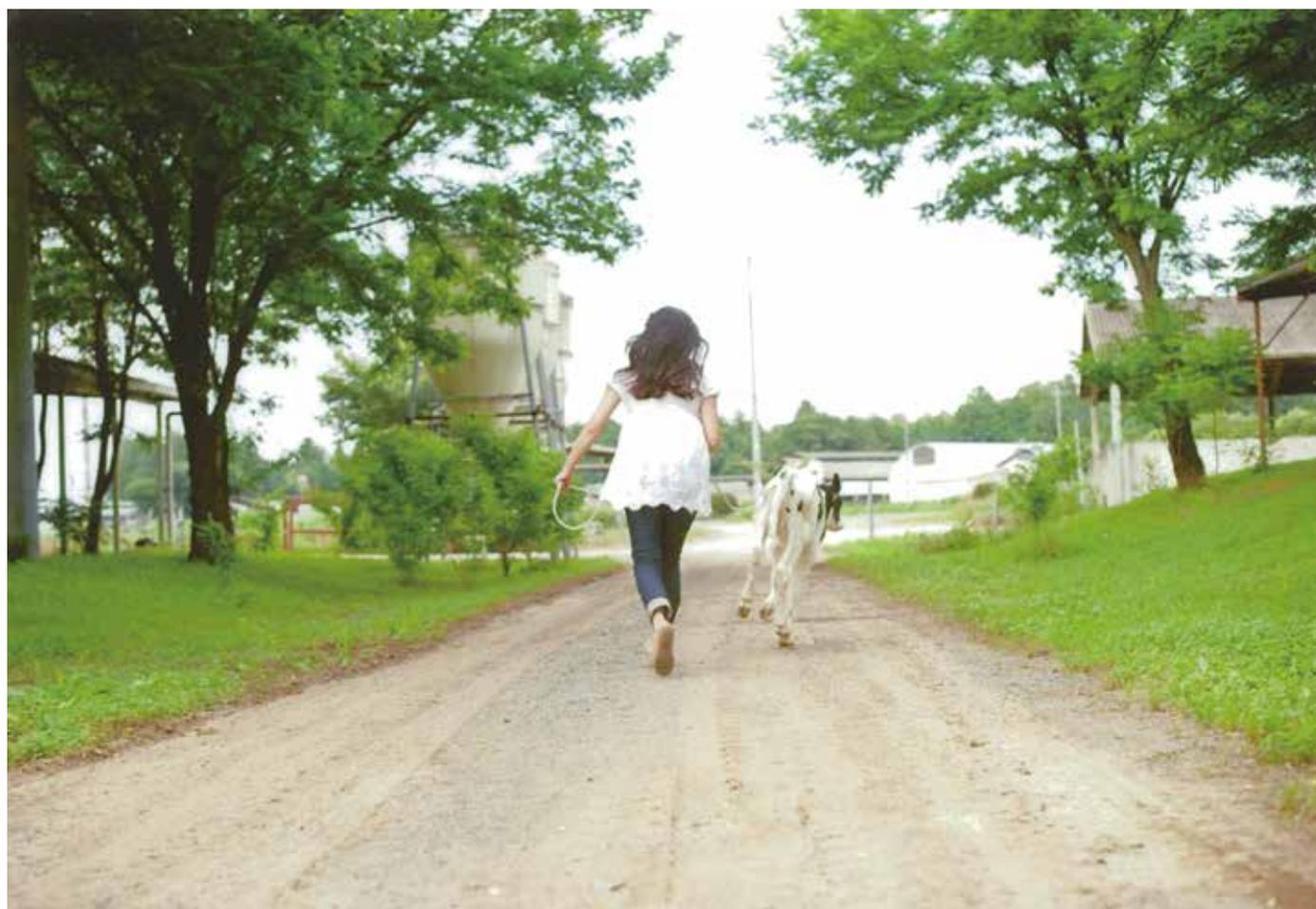
平成26年度 会員概況調査より

飼料生産型酪農経営支援事業への
参加のお知らせ



酪農トピックス／「らくのうマザーズ市場」
搾乳素牛セールの初せり開催される！（福岡）ほか

日本酪農見て歩紀（愛知県 瀬戸市 牧場みずの坂west hill）
全国酪農協会発行の企画・制作・出版書籍のご案内
ミルクアレンジの紹介
人事異動



2

2016 February No.605



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.18

ホンネ

家族経営で 牛の能力を最大限に引き出す 飼養管理を目指して

今回は、^{なごみまち}熊本県玉名郡和水町 高木牧場の後継者
高木大輔さんにお話を伺いました。

大輔さん、美智代さん
が搾乳、大輔さん
が給餌と牛群管
理、奥様（真美さ
ん）が哺育・育成
管理をされていま
す。自給飼料畑で
はイタリアン10ha、
ヒエ7haを作付し、
修治さん、大輔さ
んが管理されてい
ます。堆肥は畑に
散布するだけでな
く、付近の畑作農
家さんへ販売して
います。



牛舎遠景

やっと自分の牧場で、やりたいようにやれ
る！と感じています。飼養管理を任されてい
ますが、餌は乳量・乳質・繁殖、ひいては経
営と全てに繋がるので責任重大です。県酪連
の発酵TMR製品を利用しコストダウンを図
り、安定した飼料給与ができていますが、粗
飼料の品質・嗜好性に気を配ることで、1日
1回のTMR給与と数回の餌押しでよく食
込んでくれています。乾乳牛についても、カメ
ラで分娩房を確認し、分娩後3日までの立ち
上げに気を付けています。具体的には、分娩
前2ヶ月〜分娩後1ヶ月まで強肝剤を給与し、
分娩後の乳量や各種疾病（ケトosis、低C
a血症、後産停滞など）のチェックをしていま
す。乳量が極端に減る場合などは嗜好性の良
いスターターを給与したり、少量ですが搾乳



大輔さん(左)と父修治さん(右)

〔経営概況〕

所 属 玉名酪農業協同組合(吉田孝壽代表理事組合長)
家族構成 大輔さん、両親、祖母、妻
飼養頭数 経産牛60頭、未経産牛40頭(子牛含む)

和水町は、熊本県の北西部に位置し、
2006年に菊水町と三加和町が合併してでき
ました。江田船山古墳や田中城跡などの国指定
遺跡、トンネル遺構のトンカリンと呼ばれる
県指定遺跡など、歴史ある地域でもあります。
高木牧場が所属する玉名酪農業協同組合(吉
田孝壽代表理事組合長)は、酪農家戸数19戸、
年間生乳生産量は17,687t(平成26年度)
です。高木牧場は、フリーバーン型牛舎1棟、
育成牛舎1棟で経産牛60頭、未経産牛40頭、
計100頭を飼養しています。

「両親(修治さん、美智代さん)

就農しての感想

4人兄弟の長男ということもあり、小さい
ころから「家を継ぐんだ」という想いはあり
ました。酪農学園短期大学を卒業した後、北
海道の2牧場で1年間ずつ研修し、さらにア
メリカ・カナダで1年ずつ実習を行うことで、
家族経営から大規模経営まで経験を積むこと
ができたと思います。25歳で帰国し、就農し
ました。

就農してやりがいを感じていることは？

やっと自分の牧場で、やりたいようにやれ



掃除が行き届いた8頭ダブルのパラー



搾乳牛舎



育成牛舎



ロールベラー、トラック



カーフハッチ

高木さんより

全国の若手後継者の
皆さんへ 一言!

No Milk No Life!!!



TMRを乾乳期通して給与し、移行期をスムーズに飼養管理しています。
和水町では6戸の酪農家がありますが、同年代の後継者も多く、年に数回、青年部の研修会や交流会を行っています。周りに目標となる優秀な方が多く、勉強になります。
平成26年度の搾乳牛平均乳量は32・8kg、夏場も30kgより下がることはなく、乳質も安定しているとのこと。種付けもご自身で行い、性選別精液を活用することで、現在育成頭数が充実しているそうです。

今は搾乳牛年間乳量が11,000kgですが、今後は特にTMRの切断長に気を配りながらDMI（乾物摂取量）を最大にする工夫などをして、13,000kgを目標に能力の120%を出せる牛群作りを目指したいです。牛舎・搾乳施設はまだ余力がある（牛舎最大100頭収容、搾乳施設は8頭ダブルのパラー）ので、育成牛が上がってきたら搾乳牛80頭規模になると考えています。田安、飼料高、TPPなどに負けない経営を目指したいです。

今後の目標について教えてください

穏やかで控えめながらも芯が通った大輔さん。熊本県酪連主催のイベントで、北海道出身の奥様と出会い、昨年ご結婚され充実した日々を過ごしていらっしゃいます。高木牧場の今後益々のご発展を祈念いたします。

危機に直面する日本の酪農。
今まさに「崖っぷち」に
立たされています!



酪農業 に対する 理解醸成活動報告

全酪連では、酪農業に対する理解醸成活動として、酪農家戸数が減少していることに伴い生乳生産量が減少し、このままでは国産牛乳・乳製品が無くなるかもしれないことを消費者の方に訴え、“牛乳を飲んで応援していただく”べく、全国酪農青年女性会議に協力いただきながら、牛乳専用保冷エコバックとチラシ計16,000セットを配布しPR活動を行いました。11月16日(月)に東京都 JR有楽町駅の駅前広場にて行った活動に前後して、10月～1月まで全国各地で順次活動を行いましたので、その活動結果を抜粋してご報告いたします。ご協力いただいた関係者に深く御礼申し上げます。

仙台支所



勾当台公園

「宮城県牛乳乳製品フェア2015」(仙台市青葉区)
日 時:10月17日(土)、18日(日)
参加者:東北酪農青年婦人会議委員含む10名

札幌支所



北ガス文化ホール

「ちとせ消費者まつり2015」(北海道千歳市)
日 時:10月17日(土)
参加者:北海道酪農青年女性会議委員含む3名



代々木公園

「渋谷区ふるさとフェスティバル2015」(東京都渋谷区)
日 時:11月2日(月)、3日(火)
参加者:東北酪農青年婦人会議委員含む15名



アクセスサッポロ

「北のアメ横さっぽろ2015」(北海道札幌市)
日 時:11月21日(土)
参加者:北海道酪農青年女性会議委員含む3名

東京支所



農林公園ろまんちっく村「宇都宮市農林業祭」(栃木県宇都宮市)
日 時:11月14日(土)、15日(日)
参加者:栃木県酪農青年女性会議委員・組合職員含む6名

寄居町立総合体育館・アタゴ記念館及び特設会場(埼玉県寄居町)
日 時:11月14日(土)
参加者:関東酪農青年女性会議委員、
埼玉酪農業協同組合の組合員含む10名



**JA前橋市本所ちびっこ広場
「前橋市 農業まつり」**(群馬県前橋市)
日 時:11月14日(土)
参加者:群馬中央酪農業協同
組合職員、他関係団
体職員含む10名



前橋市立下川淵保育園「牛乳のお話」(群馬県前橋市)
日 時:11月25日(火)
参加者:群馬中央酪農業協同組合職員、保育士含む総勢24名



亀田市民会館「亀田・横越農業まつり」(新潟県亀田市)
日 時:11月29日(日)
参加者:新潟県酪農同志会会員含む4名



「第10回深谷市産業祭」(埼玉県深谷市)
日 時:10月31日(土)、11月1日(日)
参加者:埼玉酪農業協同組合の組合員含む16名



鯉淵学園農業栄養専門学校「鯉淵学園祭」(茨城県水戸市)
日 時:11月1日(日)
参加者:鯉淵学園農業栄養専門学校学生、教師含む9名



**サントピアワールド
「あがのわくわく産業フェア
2015」**(新潟県阿賀野市)
日 時:11月1日(日)
参加者:あがの同志会会員、
酪農にいがた職員
含む9名



佐渡市道の駅「JA佐渡ふれあいアッセ祭り」(新潟県佐渡市)
日 時:11月3日(火)
参加者:新潟県酪農女性部、佐渡乳業、JA佐渡職員含む9名



みはらしファームダチョウ牧場前「酪農祭」(長野県伊那市)
日 時:11月3日(火)
参加者:長野県酪農青年女性会議会員含む総勢39名

大阪支所



広島城とその周辺及び中央公園
「ひろしまフードフェスティバル」(広島県広島市)
 日 時:10月17日(土)
 参加者:広島県酪農業協同組合職員、他関係団体職員含む5名



海峡ゆめ広場
「MILK●JAPAN in 下関」(山口県下関市)
 日 時:10月18日(日)
 参加者:西日本酪農青年女性会議役員ら含む7名



浦安総合運動公園
「おかやまミルクフェア 2015」(岡山県岡山市)
 日 時:11月14日(土)
 参加者:西日本酪農青年女性会議委員ら含む13名



四国乳業(株)本社ビル前及び本社工場
「うし・牛 CO～Wニバル!」(愛媛県東温市)
 日 時:11月14日(土)
 参加者:愛媛県酪農業協同組合連合会職員2名

名古屋支所



岡崎市殿橋下流乙川河川敷
「岡崎城下家康公秋祭り」(愛知県岡崎市)
 日 時:11月7日(土)、8日(日)
 参加者:愛知県酪農業協同組合青年女性部員含む総勢8名



JR岐阜駅 信長ゆめ広場
「第5回岐阜市農業まつり」(岐阜県岐阜市)
 日 時:11月8日(日)
 参加者:岐阜県酪農業協同組合連合会会員含む4名

半田食肉市場
「あいち知多牛「響」枝肉共進会」(愛知県半田市)
 日 時:11月13日(金)
 参加者:愛知県酪農業協同組合青年女性部員1名



武富町ゆめたろうプラザ
「武富町産業まつり」(愛知県武富町)
 日 時:11月14日(土)、15日(日)
 参加者:愛知県酪農業協同組合青年女性部員1名

福岡支所



日田市立有田小学校(大分県日田市)
日 時:11月28日(土)
参加者:日田酪農組合員 総勢25名



児湯地域家畜市場
「第59回宮崎県畜産共進会」(宮崎県新富町)
日 時:10月27日(火)
参加者:宮崎県酪農青年女性連絡協議会委員ら7名



錦江湾公園多目的広場
「2015健康ウォーク&酪農交流イベント」(鹿児島県鹿児島市)
日 時:11月23日(月)
参加者:鹿児島県酪農業協同組合員含む17名



宜野湾市民広場
「第26回宜野湾市産業まつり」
(沖縄県宜野湾市)
日 時:11月28日(土)
参加者:沖縄県酪農青年女性部
連絡協議会ら10名



第32回朝倉市農業まつり
(福岡県朝倉市)
日 時:11月21日(土)、22日(日)
参加者:ふくおか県酪農朝倉事業所
女性部23名

天神市街地(福岡県福岡市)
日 時:10月6日(火)
参加者:九州酪農青年女性会議委員ら含む総勢25名



嘉瀬川河川敷
「2015佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」(佐賀県佐賀市)
日 時:11月1日(日)
参加者:佐賀県酪農婦人部連絡協議会員ら含む5名



長崎県立島原農業高等学校
「島農祭」(長崎県島原市)
日 時:11月8日(日)
参加者:長崎県酪農青年女性会議委員ら含む5名



熊本市立西里保育園
「酪農ふれあい体験交流事業」
(熊本県熊本市)
日 時:11月19日(休)
参加者:熊本県酪農青壮年部
協議会含む9名

会員概況 調査より

本会では、会員酪農協における組織・事業の概要を把握することにより、事業運営における問題点を明確にし、その改善を図り、体質強化に資することを目的として会員概況調査を実施しております。

この度、平成26年度の調査結果がまとまりましたのでご報告します。なお、データは、各会員より提出された「会員概況調査票」の数値を使用し、集計を行っています。

1 本会の会員概況

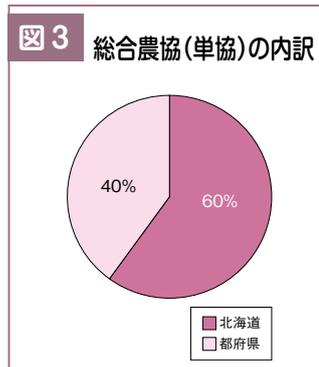
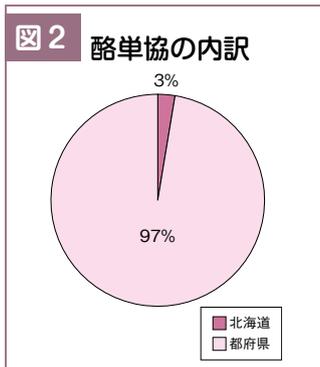
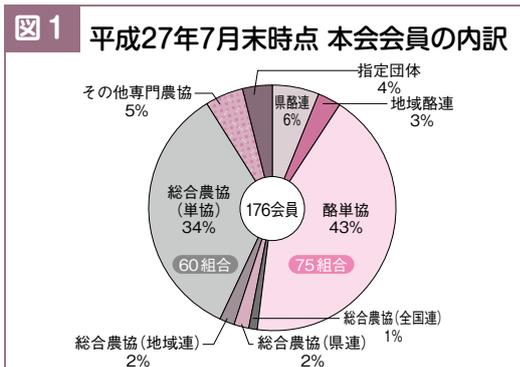


図1は、平成27年7月末時点での本会会員の内訳をまとめたものである。

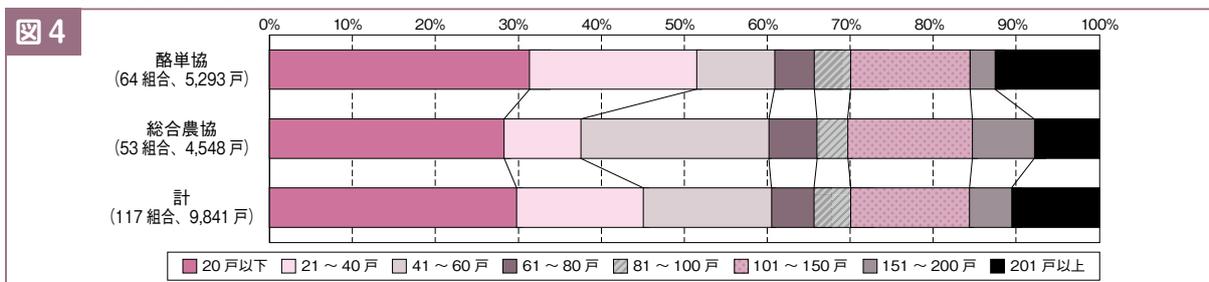
解説

これを見ると県酪連、地域酪連、酪単協などの専門酪農協が52%、総合農協系が39%、他専門農協と指定団体が残り9%の構成となっています。

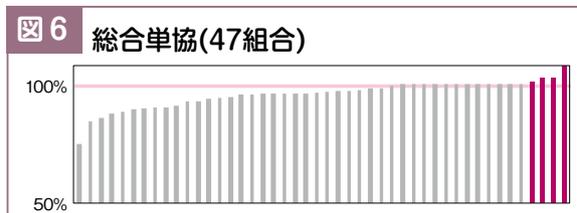
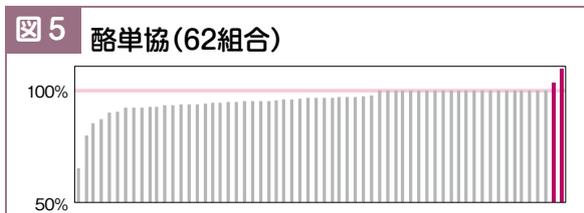
また、酪単協はほぼ都府県に所在し、総合農協 (単協)は北海道6割、都府県4割の割合となっている。

2 酪単協、総合農協 (単協)における酪農概況

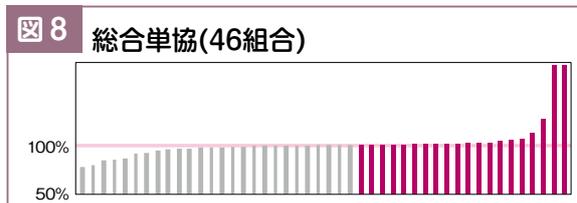
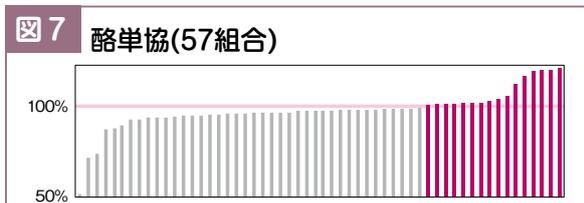
(1)生乳出荷規模割合



(2)生乳出荷戸数の前年との比較



(3)搾乳牛頭数の前年との比較



(4)年間生乳取扱量の前年との比較



図4では、酪単協と総合農協(単協)の生乳出荷戸数割合を示した。(136組合中、提出のあった117組合にて集計)

解説 酪単協では1組合あたりの生乳出荷戸数40戸以下が5割を占めているのに対し、総合農協では1組合あたりの生乳出荷戸数がより多いことが分かる。全体を見ても、生乳出荷戸数が20戸以下の組合が3割を占めている。
また、図5～10は、生乳出荷戸数、搾乳牛頭数、年間生乳取扱量の前年との比較を酪単協と総合農協で比較した。(提出のあった組合にて集計。赤色は前年比越えの組合を示す)。全項目において減少傾向の組合の割合が多いが、生乳出荷戸数、搾乳牛頭数が増加した組合もある。搾乳牛の増頭割合が大きい都道府県は、北海道に次いで、関東(群馬、茨城、千葉、栃木他)に多く、また、東北3県(青森、岩手、宮城)でも増加の傾向がみられる。

3 酪単協における常勤役員、役職員の状況

表1 常勤役員の在籍状況

規模	項目	集計 組合数①	常勤役員がいる組合		1組合あたり 常勤役員数	生乳出荷戸数	役職員	役職員1人あたりの 酪農家戸数
			組合数②	比率②/①				
	20戸以下	20	3	15%	0.2	238	228	1.0
	21戸～40戸	13	10	77%	1.3	400	283	1.4
	41戸～60戸	6	2	33%	0.3	311	98	3.2
	61戸～80戸	3	3	100%	1.7	213	70	3.0
	81戸～100戸	3	7	233%	1.7	274	147	1.9
	101戸～150戸	9	2	22%	1.4	1,176	504	2.3
	151戸～200戸	2	2	100%	2.0	356	108	3.3
	201戸以上	8	8	100%	2.1	2,325	503	4.6
	全体	64	37	58%	1.0	5,293	2,149	2.5



表1及び図11、12は、生乳出荷戸数別に見た1組合あたりの常勤役員数及び役職員1人あたりの酪農家戸数を示した(提出・記入のあった64組合にて集計)。

解説 生乳出荷戸数別で数値のバラつきはあるものの、概ね規模に比例して増加傾向にあることが分かる。

まとめ

農林水産省が公表した統計によると、平成26年度の全国の生乳生産量は773万t(前年比97.7%)、飼養頭数は1395千頭(前年比98%)となり、前年度に続き減少となっている、主な要因のひとつとして後継牛の不足により増頭が容易ではない状況にあることが考えられる。本調査においても一部会員において増頭の兆しがみられるものの、生乳生産量、飼養頭数は減少傾向にある組合の割合が多い。今後の生乳生産量回復のために、後継牛の確保等、生産基盤強化への取組が喫緊の課題であると言える。

また、酪農専門農協が、組合員である酪農家にとって必要とされる組織であるためには、組織の業務執行体制の強化が不可欠であり、そのために職務に専念できる常勤役員の在籍は重要であると考えられる。しかし、本調査において、出荷戸数が20戸未満の組合においては7割以上が常勤役員を置いていない。また40戸未満の組合では常勤役員の人数が1名弱、もしくは、1名に満たないという結果となった、今後、この点の改善のためにも組織の整備及び強化が必要であると思われる。

最後に

この度、調査にご協力いただいた会員・関係者の皆様がこの場を借りて感謝申し上げます。会員概況調査においては、会員組合から提出される調査票が多いほど、より正確なデータが解析できます。全国の本会員の動向を定期的に報告させていただくためにも、今後とも本調査へのご協力をお願いいたします。

福岡
支所発

ぎゅうにゅう
「G・E・W NEW
～元気・笑顔・ワクワク すべてを新しく～」
—九州酪農青年女性会議「平成27年度指導者研修会」を開催！—

1月14日(木)、熊本県熊本市のKKRホテル熊本において、九州酪農青年女性会議（小園千弘委員長）主催の「平成27年度指導者研修会」が開催されました。今年のメインテーマは、“元気・笑顔・ワクワクを提供する牛乳が、今後益々飛躍していくように”という意味を含め、「G・E・W NEW ～元気・笑顔・ワクワク すべてを新しく～」とし、九州沖縄各県より酪友103名が集結しました。

開会式では、九州酪農青年女性会議 小園千弘委員長の主催者挨拶の後、熊本県農林水産部生産局畜産課の中村秀朗課長、熊本県酪農業協同組合連合会の吉田孝壽代表理事会長から祝辞が述べられました。



▲小園委員長



▲熊本県 中村課長



▲熊本県酪連
吉田会長

今回の研修会は、酪農教育ファーム推進委員会・九州地区委員長を務めてらっしゃる小学校教諭の尾場瀬優一先生をお招きし、「酪農

教育ファームで酪農家から学んだこと」と題し、自らの経験と、酪農をいかに子供達に伝えるかについて講演をいただきました。体験学習では、



▲尾場瀬先生

「ブラッシングすると耳も尾も垂れて、目がとろんとするんだよ。牛が喜んでいる証拠だよ」など、牛の反応を説明するだけで、やらされる体験からやりたいと思う体験に変わることで、命の大切さを実感するのは、酪農家の言葉と体験がセットであることなどを説明頂きました。

講演の終了後には意見交換会が行われましたが、「まずは先生方に酪農を正しく理解いただき、酪農家の味方になってもらえるよう努力が必要だと感じました」、「牛乳消費拡大活動など、より頑張って酪農の応援団を増やしましょう」などの力強いご意見を頂くことができました。

また、研修会後の交流会では、熊本県酪農業協同組合連合会の新美浩代表理事常務による歓迎の挨拶と乾杯に始まり、地元熊本県から太鼓のアトラクションが披露される中、大いに親睦を深めました。(K.S)



▲会場の様子

福岡
支所発

「らくのうマザーズ市場」 搾乳素牛セールの初せり開催される!

搾乳素牛を年間1,500頭以上集畜し取扱っている家畜市場は、北海道を除いた都府県では、熊本県酪農業協同組合連合会が最大の市場になっています。今年最初の搾乳素牛セールが1月15日(金)にJA熊本市畜産センター(熊本県上益城郡)で開催されました。

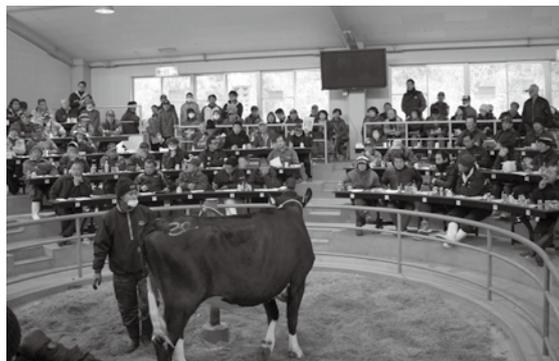
当日は初せりに先立ち、吉田孝壽代表理事会長が「平成27年度の最終生乳計画生産目標数量を見れば前年を確保している県は少ない状況にあります。上期は前年を上回って生産できたものの、下期に入り各県ともペースが落ち、このままの状況では数県を除いて九州全体の生乳生産は、前年を割り込むことが予想されますので、生産者の皆様におかれましては、尚一層生乳生産に努めて頂きたい。都府県では、毎月定期開催されている市場は本県以外には無く、これだけの出品頭数と購買者が多い市場は他にありません。今後



▲吉田孝壽代表
理事会長

の生乳生産確保のため、この搾乳素牛市場を十分に活用され搾乳後継牛を確保して頂きたい。」と年頭の挨拶。多くの購買者が集まる中、活気あるせりが開催されました。

通常は月間140頭前後の取引がある中で、今回は、育成牛2頭、初妊牛69頭、経産牛26頭の計97頭の成立(出品頭数は99頭)でした。特に初妊牛の平均販売価格は614千円(税抜)で、前月よりも30千円の値上がりでした。(K.K)



▲初せりの様子

酪青女
発

「全国酪農発表大会」に向けて 「地域大会」が開催!

全国酪農青年女性会議では、今年の7月に開催される全国酪農発表大会(愛知県名古屋市)に向けて、まずは3月中旬から4月にかけて各地で地域大会が開催されます。お誘い合せのうえ、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

皆さんのパワーで全国大会を盛り上げていきましょう!!



会議名	開催期日	開催場所
北海道	3月23日(水)	北海道札幌市 京王プラザホテル 札幌
東北	3月23日(水) ~24日(木)	宮城県松島町 ホテル松島 大観荘
関甲信	3月23日(水) ~24日(木)	埼玉県熊谷市 四季の湯温泉 ホテル・ヘリテイジ
中部	3月17日(木) ~18日(金)	岐阜県岐阜市 長良川温泉 十八楼
西日本	4月21日(木) ~22日(金)	愛媛県松山市 道後温泉 道後プリンスホテル
九州	4月21日(木) ~22日(金)	宮崎県宮崎市 シーガイアコンベンションセンター

お申込み・お問い合わせは、最寄りの全酪連支所まで

飼料生産型酪農経営 支援事業への 参加のお知らせ

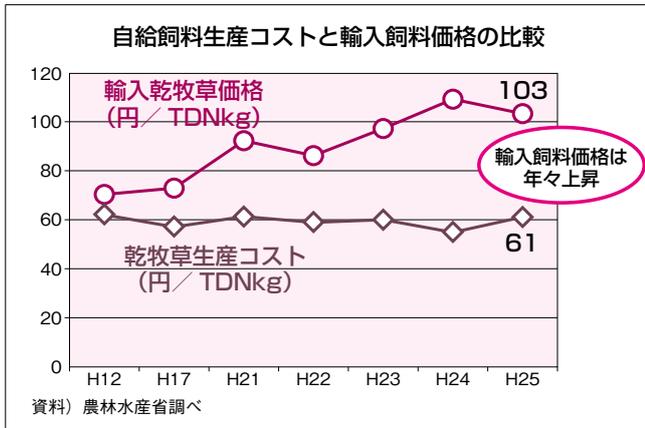
酪農経営で安定的に収益を確保していくためには、国産飼料の生産・利用によりコスト削減を図っていくことが重要です。本事業については、自給飼料生産をさらに支援するため、28年度から追加交付金を創出するとともに、参加要件を一部緩和しますので、酪農家の皆様の参加をお待ちしています。

事業の参加方法や詳細な内容に関するお問い合わせは、お近くの農政局等まで御連絡ください。

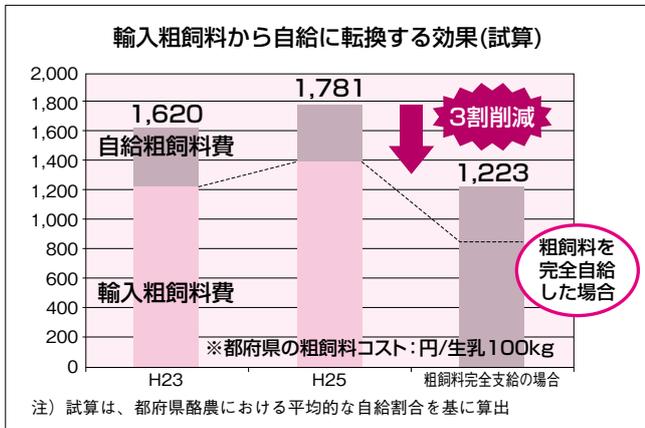
1. 事業の趣旨

酪農経営を安定的に継続していくためには、輸入飼料価格が、近年高水準で推移しており、為替や国際需給の影響を受けて変動することを踏まえて、国産飼料への転換を進める必要があります。

特に、粗飼料については、我が国の土地基盤を活用することで、輸入粗飼料の購入に比べて安価に生産することが可能であることから、自給飼料生産に取り組むことが経営体質の強化につながります。



しかしながら、土地条件の制約等から転換が顕著には進んでおらず、粗飼料生産の一層の拡大のため、費用負担の軽減を図ることが重要になっています。これらの状況を踏まえ、農林水産省では、酪農家の自給飼料生産を支援するため、本事業を措置し、飼料作付面積に応じて交付金を交付しています。なお、酪農経営の継続のためには、堆肥を土壌へ適正に還元するなど環境に配慮した経営を行う必要があることから、本事業



の参加に当たっては、環境負荷軽減に取り組むことが要件となつていきます。

2. 主な事業内容

自給飼料生産基盤に立脚した経営を行う酪農家(自給飼料の生産を行うとともに環境負荷軽減に取り組んでいる者)に対し、飼料作付面積に応じて交付金(1.5万円/ha)を交付します。コントラクターやTMRセンター

● 問い合わせ先

北海道農政事務所農政推進課	011-642-5410
東北農政局畜産課	022-221-6198
関東農政局畜産課	048-740-0027
北陸農政局畜産課	076-232-4317
東海農政局畜産課	052-223-4625
近畿農政局畜産課	075-414-9022
中国四国農政局畜産課	086-224-9412
九州農政局畜産課	096-211-9477
沖縄総合事務局生産振興課	098-866-1653

農林水産省のウェブサイトにも
詳細な情報を掲載しています。

飼料生産型

検索

(参加要件である経営体の全作付面積に占めるデントコーン・ソルガム等の割合を4割以上↑2割以上)

二期作・二毛作の2作目の面積や、耕種農家等へ栽培委託した面積も交付対象となります。28年度からは、輸入粗飼料の使用量を削減して飼料作付面積を拡大した場合に、拡大面積に応じて、追加交付金(3万円/ha)を交付します。さらに、28年度は、環境負荷軽減の取組メニュー⑧について、都府県での参加要件を緩和します。

自給飼料を生産・利用している 酪農家の方へ

飼料生産型酪農経営支援事業(平成28年度)への参加のお知らせ

平成28年度からは、輸入粗飼料の購入量を削減して飼料作付面積を拡大した面積に応じて、交付金を追加交付します。

支援対象の酪農家

- 飼料作物作付面積が、
北海道で40a/頭以上
都府県で10a/頭以上 であること
- 環境負荷軽減(8メニューから2つ選択)
に取り組んでいること

環境負荷軽減の8メニュー

- ① たい肥の適正還元の実施
- ② 耕畜連携の取組
- ③ 不耕起栽培の実施
- ④ 放牧の実施
- ⑤ 無化学肥料栽培又は無農薬栽培の実施
- ⑥ サイロでの牧草サイレージ調整における排汁の低減及び適正処理の実施
- ⑦ 副産物の利用による草地の適正管理
- ⑧ 環境負荷に配慮したデントコーン・ソルガム等の生産

NEW! 都府県で⑧のメニューを選択できるのは、全作付面積に占めるデントコーン・ソルガム等の割合が**4割以上の場合に限定されていた**。
今後は、同割合が**2割以上の場合も可能**。

取り組まれているメニュー (ベスト5)

- 1位 無化学肥料栽培又は無農薬栽培の実施
- 2位 たい肥の適正還元の実施
- 3位 放牧の実施
- 4位 耕畜連携の取組
- 5位 環境負荷軽減に配慮したデントコーン・ソルガム等の生産

[参考:26年度実績]

交付対象の作付地及び単価

- 酪農家の自給飼料作付面積に応じて交付金を交付(二期作・二毛作の2作目や耕種農家へ栽培委託している面積も含む)

交付金単価: 15,000円/ha

NEW!

- **輸入粗飼料の購入量を削減^(※1)する場合には、飼料作付面積の拡大分^(※2)に対し、上記交付金に加えて追加交付金を交付**

交付金単価 : 45,000円/ha
= 15,000円/ha + 30,000円/ha

追加
交付金単価

- (※1) 前年と比較して、面積拡大1ha当たり1トン以上削減する必要
- (※2) 過去3カ年度で最大の交付対象面積(新たに事業に参加する場合は、前年度の作付面積)からの拡大が必要

交付金	追加 交付金単価	3万円/1ha
	交付金単価	1.5万円/1ha
飼料作付 面積	現行の 作付面積	拡大面積



木下健保さん ▲

No.273
まきば
牧場みずの坂west hill
愛知県瀬戸市

地域住民と共に歩む牧場 ～新興住宅地域にある憩いの空間～

▼看板



▲牧場全景

地域の概要

まきば
牧場みずの坂west hill
がある瀬戸市は、名古屋市の北東部に位置し、周囲を小高い山々に囲まれ気候も温暖な地域であります。丘陵地帯は瀬戸層群と呼ばれる焼き物原料の良質の陶土を豊富に含んでおり、窯業で有名であり、「瀬戸物（せともの）」は焼き物の代名詞として世界中に知られています。



昭和45年代からは名古屋市のベッドタウンとして都市化が進み、農家も減少し、現在市内の酪農家は4戸となっています。

同牧場は2haの土地に牛舎、発酵堆肥舎、飼料倉庫、放牧区、住宅があり、広々として公園みたいな感じとなっています。

牧場は新興住宅地域と道路一本で隔たっており、逆方向にはゴルフ場が隣接しています。

牧場の概況

・経産牛57頭、未經産牛・育成牛・子牛12頭を飼養し、労働力は経営主の木下健保さん（68歳）、奥さんのみち子さん（67歳）と雇用2人（男性）であり、夫婦で搾乳を



▲牛舎内

担当し、その他の作業を雇用人が行っています。新興住宅地域にあるので雇用確保に困ることはないとのこと、また、酪農ヘルパーも定休型で月3回利用しているそうです。長男、長女、次男のお子さん達3人は社会に出られ就農しておりません。

自給飼料の生産はなく、給与飼料はチモシー、ルーサン、小

麦へい、配合飼料で、飼養管理については、弊会職員、獣医師、関係機関の指導・アドバイスを仰いで対応しており、現在、特別な問題もなく、経営も無借金とのこと。

糞尿処理については、1か月間の発酵により堆肥として畑作農家等に販売し完結しており、需要が多く不足することもあるそ

うです。また、牛以外にダチョウ、ヒツジ、ヤギ、ウサギ、ウコッケイ、モルモット、アヒル等が飼われており、動物とのふれあい体験ができます。牧場は年中、無料で開放しており、地域住民は勿論、他県からも来場があり、さらには移動動物園も行っており、関わる消費者は年間で8万人近いそうです。受け入れ対象も地域の子ども会やサークルだけでなく、市内外の小学校11校の児



▲ダチョウ



▲ヤギ

童も総合学習や食育、遠足等で訪れます。

平成12年に地域交流牧場全国連絡会に加入し、13年には酪農教育ファームの認証を受けております。搾乳・哺乳体験やバター作り等も行い、消費者との交流に一生懸命取り組み地域住民や消費者になくしてはならない牧場となっています。

このように地域住民、牧場訪問客のために特に臭気や衛生問題には気を遣っているとのこと、前者では風向きとの関係で一定の時間しか発酵堆肥舎を運転しないそうです。



▲お客さん

牧場の歩み

健保さんは2代目ですが、父親が役職で忙しかったこともあり、中学3年生のときから搾乳は始め、高校卒業と同時に昭和40年から就農されています。

平成元年、戦後開拓地であった牧場の敷地を含む地域が宅地開発事業計画の決定で移転を迫られることになりました。この時、健保さんは、郊外に移転した酪農仲間が結局は廃業していくのを見聞し、今までの酪農に疑問を持っていたようで、熟慮し、「戦後の多頭化推進で糞尿処



▲隣の新興住宅街

理が後手に回り、どこに行っても将来の継続は困難ではないか。

この場所で継続できる酪農に変えるチャンスではないか」と一念発起。市や住宅公団との8年、100回以上にも及ぶ協議を重ね、宅地開発地域内に牧場の敷地を確保できることになりました。公共事業計画を個人が変更したというのは全国でも珍しい事例だそうです。

こうして地域住民に理解され、存立できる牧場をめざして、努力を続け今日に至っています。JA全中・NHKが主催する第41回日本農業賞では「特別部門」において優秀賞を受賞しています。

これからの夢

健保さんは就農して50年であり、日本の酪農の変遷の多くを体験、見聞されてきたわけで、穏やかな表情のなかに風格さえ感じます。子ヤギを抱っこした時の笑顔や、仮死状態で生まれた子牛の話で声を詰まらせたり、本当に牛や動物を愛されているのが良く分かります。

最後に

「補助金にあまり頼りすぎない方がいいと思う。他力本願に傾く」との健保さんのことばが印象的でした。取材へのご協力にお礼を申し上げ、牧場の発展をご祈念申し上げます。

「息子さんが後を継いでくれるといいですね」と向けると「どうかねえ」と苦笑い。今のところ分らないようですが、健保さんの表情は期待しているように見えました。

また、牧場で乳製品や料理を楽しんでもらえるカフェや、加工体験ができる工房を作りたいとのことです。



▲木下健保さん

全国酪農協会発行の 企画・制作・出版書籍のご案内



牛群検定クイックチェック ～早わかり～

著者：相原 光夫
●定価2,400 円(税込・送料別)
●規格A4 判 155 頁



ウシのきもち、ヒトのきもち ～乳牛獣医師の四方山ばなし～

著者：山下 厚
●定価1,000 円(税込・送料別)
●規格A6 判 468 頁

●本のご購入、お問い合わせ先は、
一般社団法人 全国酪農協会
電話：03-3370-5341(指導部) <http://www.rakunou.org/>



ミルクアレンジの紹介

ヨーグルトデザート編
全酪連 代表理事専務 清家英貴



材料 (2人分)

- ・プレーンヨーグルト 100g
- ・ラクトアイスクリーム (バニラほか) 1ヶ
- ・好みのジャム
- ・ガラスの器 (口広が良い)

作り方

1. ヨーグルトとアイスクリームをスプーンなどで交互に層状になるよう器に盛る (厚さ 1cm くらい)
2. 冷蔵庫に入れ、3～5分 (急ぐ場合は、冷凍庫に2分)
3. お好みでジャムをかける

ポイント

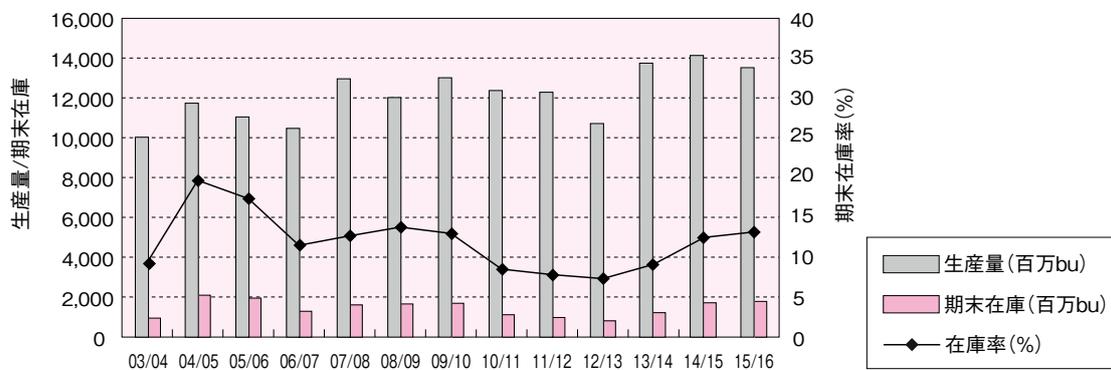
- ・アイスクリームが溶けやすいので、ガラスの器はよく冷やしておく
- ・見た目も重視して、ガラスの器を使いました
- ・アイスは抹茶味もおすすめです
- ・ヨーグルトがアイスクリームに接しているところがシャリシャリの食感に変わります

皆さまから
アイデアを
お待ちしております！

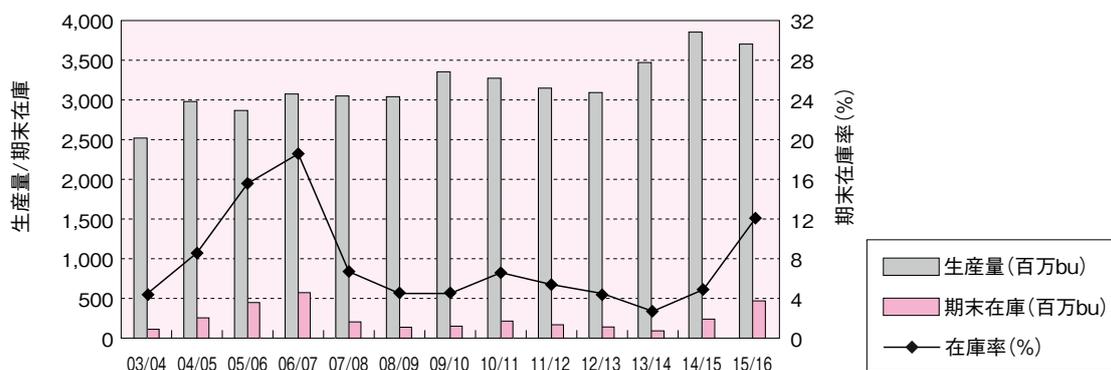
原料情勢 平成28年1月

1月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【14/15年産】 作付面積90.6百万エーカー、単収171.0bu/エーカー、生産量142億1,600万bu、総需要量137億4,800万bu、期末在庫17億3,100万bu、在庫率12.6% 需給両面で変化なし。</p> <p>【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億100万bu、総需要量135億7,000万bu、期末在庫18億200万bu、在庫率13.3% 需給両面で減少し、期末在庫は増加した。</p>
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは、輸出等の需要の弱さから、またブラジルでの新年度の作柄見通しが豊作であること、生育が順調であることから引き続き軟調に推移していった。生産見通しが引き下げられたが、需要も引き下げられたため、結果的に期末在庫は前月より増加した。今後のシカゴ相場は、輸出需要が3ヶ月連続で下方修正されたが、今月の発表を機に軟調に推移していたシカゴ相場に反転の気配が広がっている。現在の相場では米国生産農家の採算割れも伝えられており、堅調に推移していくと思われる。
1月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【15/16年産】 供給面では作付面積と単収が下方修正され、需要面ではスローペースが続いていた輸出が下方修正、期末在庫は減少した。発表内容は市場の事前予想を下回る数字となり発表直後に大きく買われ、前日比+13-1/4¢の874-1/2¢(3月限)で当日の取引を終えている。期末在庫4億4,000万bu、在庫率11.9%
大豆粕相場動向	国内産大豆粕については、菜種対比で大豆の搾油採算が良好なことを受け、前年対比110%程度の増加で推移している。国内の多くのメーカーでは1月下旬から2月にかけて工場の定期修理に入るところが多く、受け渡しには注意が必要。輸入品の中心となっている中国品は為替円高の影響を受け、軟調に推移している。米国産大豆が史上最高の豊作となっており、南米も豊作となれば更なる軟調な展開が期待される。
槽糖類	<p>【一般フスマ】1月中旬に予定されている粉価改定(小麦粉)で値下げが予定されており、小麦粉需要が増加する可能性が高いことから各製粉メーカーはフル稼働で対応している模様。フスマの発生量増加による価格の軟化が期待される。</p> <p>【グルテンフィード】年末年始に工場を止めていたところが多く、その影響で在庫は引き締まった模様。スターチ、異性化糖の需要は前年並みで、それに合わせて工場も稼働している。1月の価格改定でグルテンフィードは値下げとなり、需給緩和による値下げが期待される。</p>
海上運賃	中国向けの貨物の荷動きの鈍化、原油価格の下落、船腹余剰感から反発する事なく軟調に推移し、船会社も貨物確保のため赤字で操業しているため、下落圧力が強まり、前月よりさらに海上運賃は下落した。これ以上の下値余地は限定的なため、横這いで推移していくと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢 平成28年1月

北米コンテナ船 フレート	昨年12月半ばにコンテナ海運業界第3位のCMA CGMがシンガポールのNOLを買収すると発表がされた。その他にも中国資本のCOSCOとCSCLが合併協議を行うなど、海運業界の再編が進んでいる背景には世界的な海運不況がある。特にコンテナ船については、大型化により船腹は過剰気味であり、それに伴い海上運賃は低迷を続けている。アジア・北米間の輸送貨物数量は、前月に引き続きアジア発北米向けの貨物が圧倒的に多くなっているのに対し、北米発アジア向けの貨物量は昨年10月時点の統計までで、15カ月連続で前年を割る数量となった。各船会社は北米出しの貨物の確保のためにアジア向けの海上運賃を下げ続けてきましたが、すでにアジア向けの海上運賃は底を打っている上、経営状況も厳しくなっていることから、今後値上げに踏み切る船社が出てくることが予想される。
米国の乳価動向	米国の乳価は、昨年までと比べ引き続き低迷している。飼料コストは昨年に比べ下がっているが、人件費や初妊牛・育成牛の価格が上がっており、乳価が生産コストを下回る厳しい状況が続いている。現在の乳価レベルが続くと、昨年同様新穀アルファルファの国内需要は弱く、産地相場も静かな展開になることが期待されるが、今後の乳製品の国際相場や他の新穀価格動向によっては状況が一変する可能性もある。
カリフォルニア 州の旱魃状況	2年続けて大旱魃が続いているカリフォルニア州だが、今年の冬は例年並みの降雪が観測されている。しかし、過去2年間の大旱魃によって各地域のダム貯水量は未だ半分程度のところが多く、今後の降水量についてもより注視が必要な状況が続いている。
ビートパルプ	米国での製糖作業は順調に行われており、今春まで製糖およびペレット生産が続く。早くから作付けを行う地域で3月末、日本向け主産地であるミネソタ州、ノースダコタ州では4月中旬より新穀の作付けが開始される予定。
アルファルファ	2015年1～11月の米国輸出統計によると、中国向けは計80万トン近くとなっている。過去数年のような爆発的な伸びは今後考えにくい。中国国内では1万キロを超える牛群も出始めてきており、より良質な乾草の需要は底堅いものと予想される。一方、中東諸国の動向は、サウジアラビアが台湾の輸入量を超え、中国、日本、UAE、韓国に続く米国産アルファルファ第5位の市場となっている。
チモシー	発生量が少なかったプレミアム品は国内・輸出向けに一定の需要はあるが、一部の中級品以下については在庫がやや重い状況になっており、海上運賃の下落もあったことから今後の価格は15年産スタート時よりも軟調になる可能性がある。
	【米国産】 現在、プレミアム品の引き合いは堅調なため産地在庫はほぼ完売に近い状況であるが、中級品の在庫は各サプライヤー潤沢に持っており、また作柄が良かった豪州産オーツに需要が動いているところもあり、今後の価格動向には注意が必要。 【カナダ産】 不安定な天候が続く、限られた上級品は馬向けの需要に向けられ、輸出向けの大半は中級品中心となっている。中級品が潤沢な米国産と日本着の価格に差がないことから、特に15年産は難しい品目となっている。
スーダングラス	主産地インペリアルバレーの15年産の作付面積は、早播きスーダンと競合するデュラム小麦の作付増の影響により過去10年の平均と比べ約20%程度減少した。15年産スーダン価格はここ数年に比べ生産農家にとって十分満足できるものではなかったことから、16年産に向けて積極的に作付けをするのか注目されている。また、限られた範囲ではあるが、有機野菜の作付けが増えている。有機野菜は需要の高まりもあって高値で取引されることから、生産農家にとって魅力的な生産物になりつつある。他には、圃場を潰してソーラーパネルを設置する動きも年々進んでおり、デュラム小麦作付動向だけでスーダンの作付面積を押し量れない要素が増えてきている。
クレイングラス	15年産作付面積は微減となったが、今のところ16年産についても大きな変動要因はない。日本及び韓国からの引き合いは安定的に推移しており、15年産良品の在庫は少なくなってきた。
ストロー類	フェスキューは韓国からの需要が堅調なため、産地価格は強含み。ライグラスの産地相場は軟調に推移していたが、海上運賃の軟化と新穀豪州産ストローの産地価格上昇に乗じて徐々に値上げの動きも予想される。
オーツヘイ	【西豪州】 オーツヘイの収穫は終了している。収穫期は晴天に恵まれ、大部分が上級品となり、雨あたりなどの低級品の発生は非常に限られたものとなった。これら低級品の代替えとしてオーツヘイとストローを混ぜたものを提案しているサプライヤーが増えている。一方でストローは、生育期の降雨不足と収穫期の天候不順で発生量は予想を下回り、相場価格は昨年に比べ堅調に推移している。
	【南豪州】 西豪州と同様に収穫は終了しており、大多数が上級品となった。収穫後期に一部で降雨があり、ごく僅か低級品が発生したがその多くが国内農家向けに流れ、輸出向けに出回ることは少ない。11月下旬に南豪州で発生した大規模な火事の影響で生産農家に保管していた一部の在庫が焼失した。電力関係も一時ダウンしたため、いくつかの工場は一時稼働を停止していた。その影響で出荷が遅れが出たため、再開後は各工場でフル稼働が続いている。
	【東豪州】 他2州よりも収穫期の降雨が少なく、ほとんどが上級品となり、分析値も比較的高い傾向にある。西・南豪州と同様に各サプライヤーからの出荷は順調に進んでいる。一方でストローは、他州と同様に単収が少なく生産量も限定的なため、産地価格は上昇している。

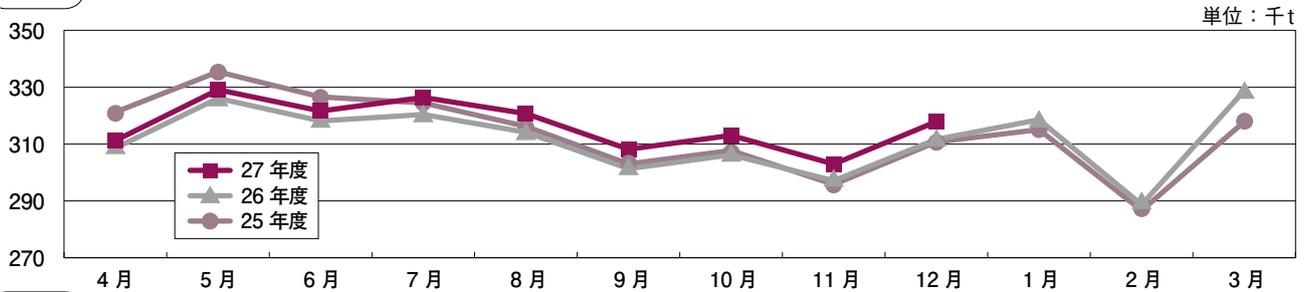
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

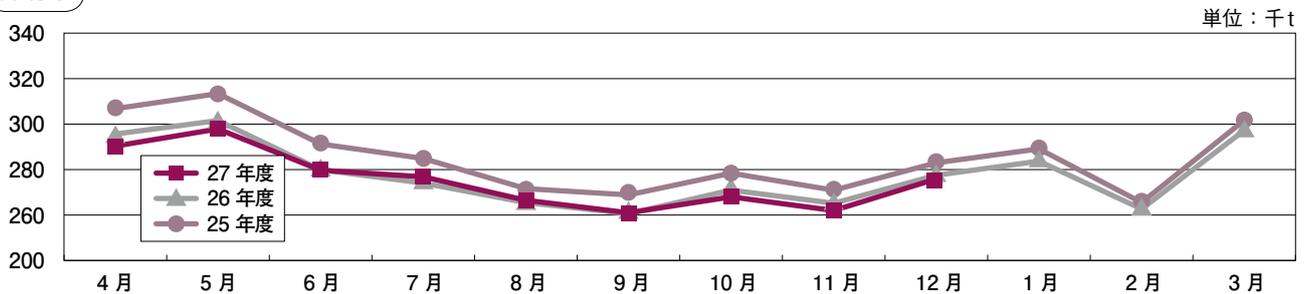
全国 593,811t で、前年同月比 4,625t(0.8%) 増加 都府県 275,900t で、前年同月比 1,620t(0.6%) 減少

北海道 317,911t で、前年同月比 6,245t(2.0%) 増加

北海道



都府県



用途別販売数量

飲用向 253,804t で、前年同月比 244t(0.1%) 減少

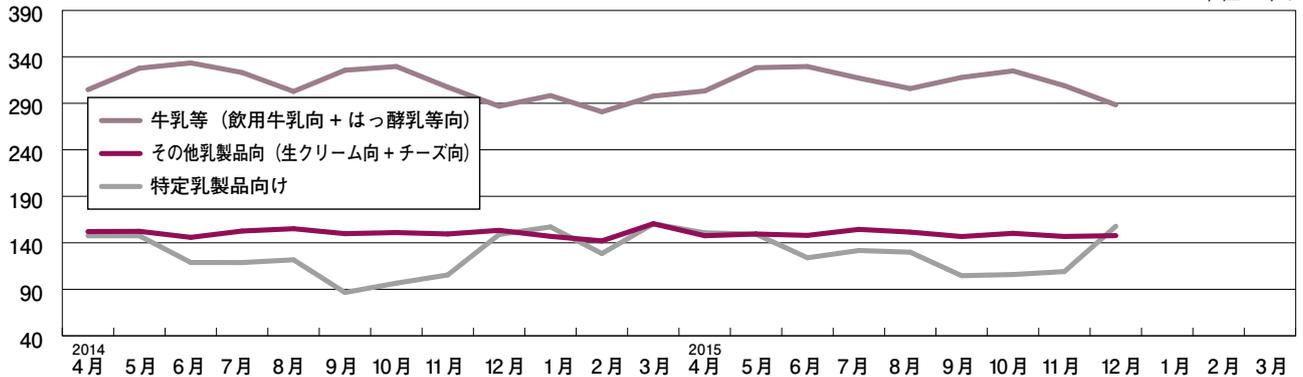
はっ酵乳向 34,519t で、前年同月比 1,719t(5.5%) 増加

クリーム向 112,726t で、前年同月比 2,703t(2.3%) 減少

チーズ向 34,994t で、前年同月比 2,964t(7.8%) 減少

特定乳製品向 157,766t で、前年同月比 8,817t(5.9%) 増加

単位: 千t



各地の需給動向

【東北】12月生乳生産は前年比99.5%。月間通して域内処理は好調であった。飲用牛乳向けは99.9%、はっ酵乳向けは112.2%、特定乳製品向けは93.4%となった。

【関東】生乳生産量は前年比100.7%。先月に続き気候が穏やかであり好調維持。処理は飲用好調とクリスマス需要で動きは良かった。飲用牛乳向けは103.0%。特定乳製品向けは93.6%となった。

【東海】生乳生産量は前年比97.7%。穏やかな気候のため、前年比としては直近動向より回復した。飲用牛乳向けは94.7%、はっ酵乳向け129.6%、特定乳製品向けは88.5%となった。

【近畿・中国・四国】生乳生産量は近畿で前年比99.8%、中国101.1%、四国94.7%。処理は順調に推移し、飲用牛乳向けにおいて、近畿99.9%、中国100.2%、四国96.2%となった。

【九州】生乳生産量は前年比98.6%。処理はクリスマス需要等で域内好調となり、不足感が生じた。飲用牛乳向けは96.1%、はっ酵乳向けが139.9%、特定乳製品向けは97.4%となった。

用途別生乳処理量

単位：千t

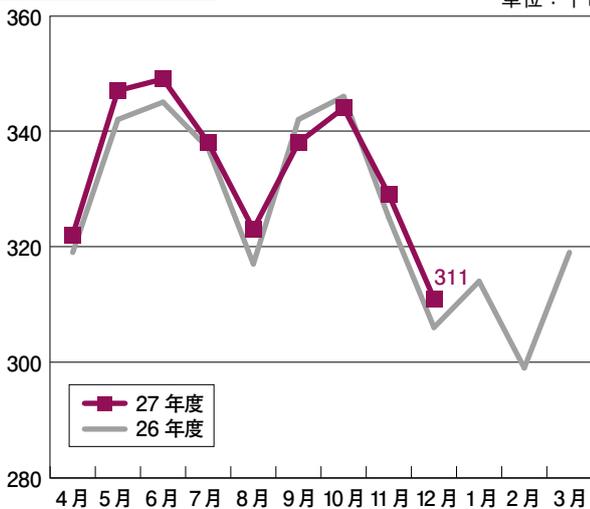
年月	生乳生産量	用途別処理量計															
		乳製品向					その他乳製品向										
		牛乳等向 ①	特定乳製品向 ②	クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③	チーズ向 ④										
2014. 4月	627	622	319	303	148	155	112	43	2015. 4月	625	620	322	298	148	150	114	37
5月	650	645	342	303	148	155	112	44	5月	649	644	347	297	151	146	109	37
6月	619	614	345	269	120	149	108	41	6月	625	620	349	271	126	145	107	38
7月	618	613	337	276	120	156	113	43	7月	629	624	338	286	133	153	110	43
8月	600	595	317	278	126	153	111	42	8月	608	604	323	281	133	148	107	41
9月	583	578	342	236	88	148	109	39	9月	593	588	338	250	107	143	107	36
10月	598	593	346	247	100	148	112	36	10月	603	599	344	255	107	148	111	37
11月	584	579	325	254	107	147	112	35	11月	588	584	329	255	110	146	110	36
12月	613	608	306	302	151	152	111	40	12月	620	616	311	304	158	147	109	37
2015. 1月	624	619	314	304	158	146	105	41	2016. 1月								
2月	573	568	299	269	128	142	101	40	2月								
3月	642	637	319	319	159	160	117	43	3月								
年度計	7,331	7,271	3,910	3,361	1,552	1,810	1,324	486	年度計	5,541	5,499	3,001	2,498	1,172	1,326	984	342

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

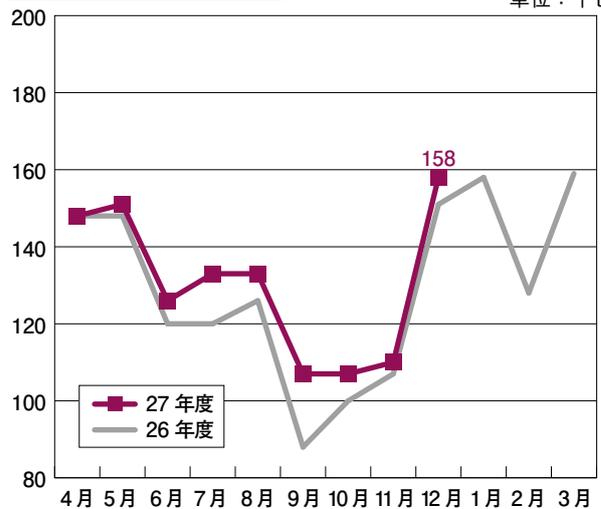
① 牛乳等向処理量

単位：千t



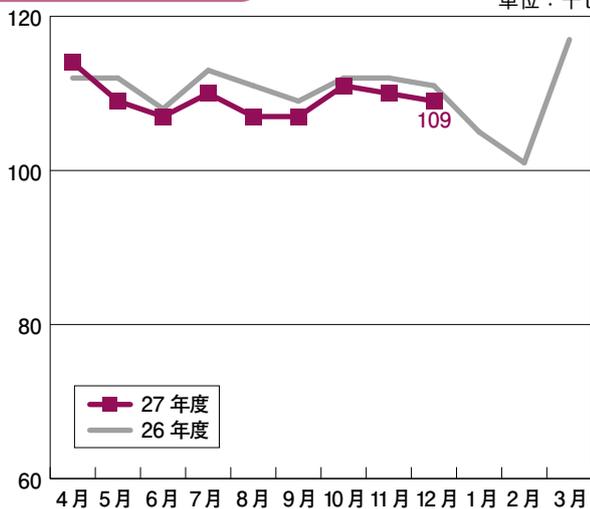
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



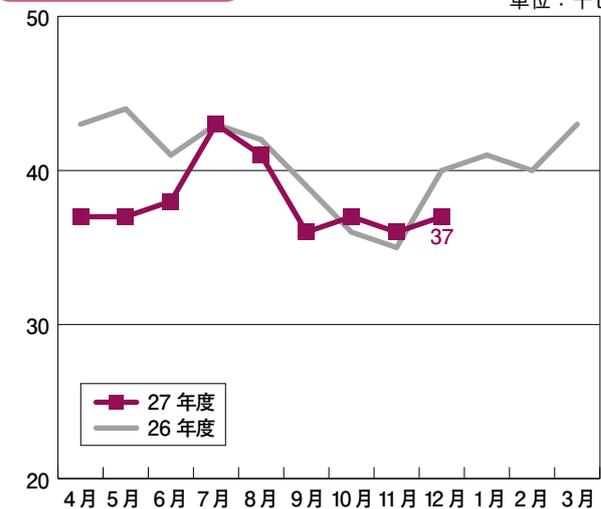
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

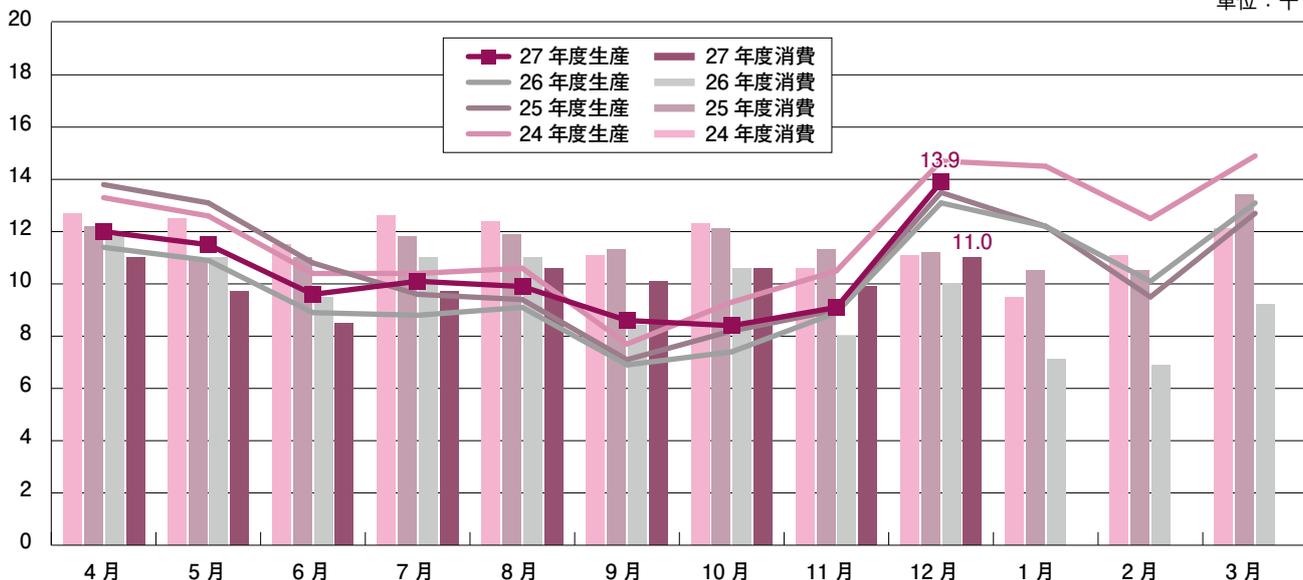
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4	2015. 4月	12.0	11.0	6.1	5.7
5月	10.9	11.0	5.7	5.0	5月	11.5	9.7	6.0	5.1
6月	8.9	9.5	4.9	4.7	6月	9.6	8.5	5.0	5.1
7月	8.8	11.0	4.7	5.7	7月	10.1	9.7	5.3	4.2
8月	9.1	11.0	4.7	5.2	8月	9.9	10.6	5.2	5.4
9月	6.9	8.4	3.5	3.7	9月	8.6	10.1	4.2	3.4
10月	7.4	10.6	3.9	5.2	10月	8.4	10.6	4.3	3.6
11月	8.9	8.0	4.0	4.0	11月	9.1	9.9	4.2	5.5
12月	13.1	10.0	5.7	5.6	12月	13.9	11.0	6.2	7.5
2015. 1月	12.2	7.1	6.7	4.4	2016. 1月				
2月	10.1	6.9	5.2	5.0	2月				
3月	13.1	9.2	6.2	6.1	3月				
年度計	120.8	114.5	61.5	61.0	年度計	93.2	91.1	46.5	45.6

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

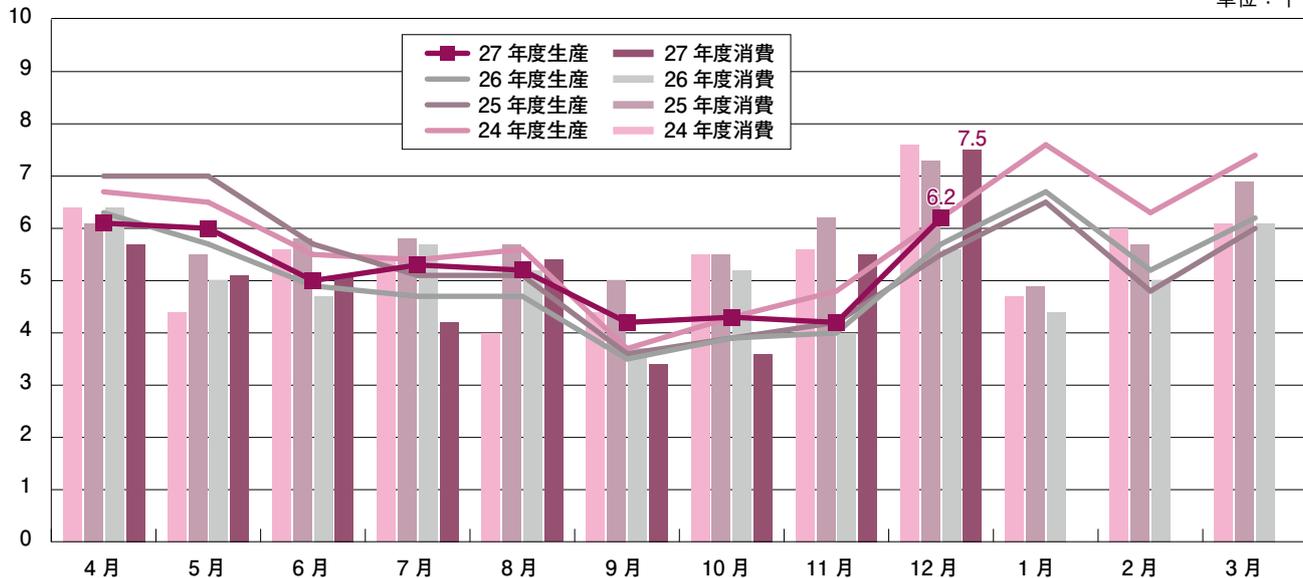
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

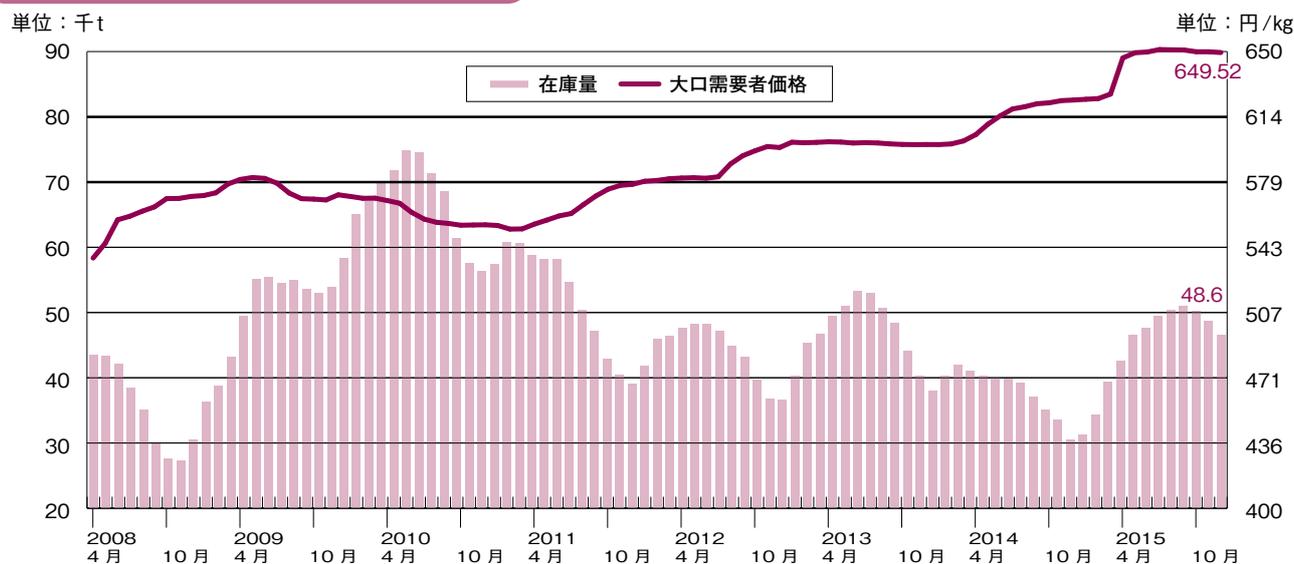


脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

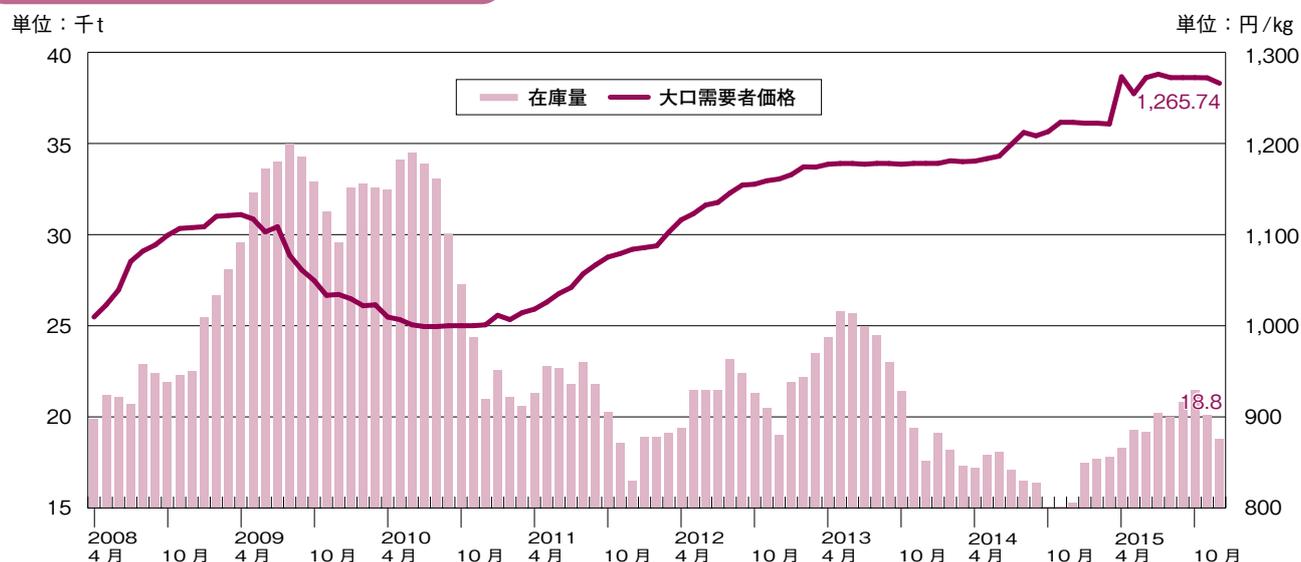
区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2014. 4月	17.2	1,181	39.9	604.56	2015. 4月	18.3	1,273	47.6	646.56
5月	17.9	1,183	39.8	610.30	5月	19.3	1,255	49.4	649.41
6月	18.1	1,186	39.2	614.85	6月	19.2	1,272	50.4	649.81
7月	17.1	1,199	37.0	618.63	7月	20.2	1,276	50.9	651.15
8月	16.5	1,212	35.1	619.85	8月	20.0	1,272	50.2	651.00
9月	16.4	1,208	33.6	621.48	9月	20.8	1,272	48.7	650.89
10月	15.1	1,213	30.4	622.00	10月	21.5	1,272	46.5	649.93
11月	15.1	1,223	31.3	623.19	11月	20.1	1,272	45.7	649.93
12月	15.3	1,223	34.3	623.52	12月	18.8	1,266	48.6	649.52
2015. 1月	17.5	1,222	39.4	623.93	2016. 1月				
2月	17.7	1,222	42.6	624.30	2月				
3月	17.8	1,221	46.5	626.78	3月				
年度計	201.7	—	449.1	—	年度計	178.2	—	438.0	—

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



バター 国内在庫・大口需要者価格推移



人事異動

新	旧	氏名
■平成28年2月1日付異動発令		
購買部 酪農技術研究所長代理	総務部付外向 (株)ゼフコ 大阪支店 次長待遇	直井 順一
購買部 分析センター長	品質保証室長	谷口 隆俊
酪農部 乳食品課長代理	福岡支所 酪農課長	近藤 宏
品質保証室長	購買部 分析センター長	徳永利一
札幌支所 畜産課長	福岡支所 南九州事務所長	坂本 敬太郎
名古屋支所 指導組織課長代理	総務部 人事室 副審査役	山田 和伸
大阪支所 業務課長	購買部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場 所場課長待遇	柳 孝和
大阪支所 近畿駐在員事務所長	大阪支所 購買畜産課	吉永 順一
福岡支所 酪農課長	名古屋支所 酪農課長	町田 篤史
総務部付外向 (株)ゼフコ 大阪支店 所場課長待遇	購買部 酪農技術研究所長代理	柳沢 光浩
購買部付外向 全国酪農飼料(株)鳥栖工場 所場課長待遇	大阪支所 業務課長	平川 洋文
購買部付外向 全国酪農飼料(株)鹿兒島工場 所場課長待遇	購買部付外向 全国酪農飼料(株)釧路工場 所場課長待遇	市石 政博
■平成28年2月1日付兼務発令		
名古屋支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	名古屋支所長 兼 指導組織課長	白鳥 建樹
福岡支所 購買推進課長 兼 南九州事務所長	福岡支所 購買推進課長	渡邊 和典
北福岡工場長 兼 総務課長	北福岡工場長	木元 守
■平成28年2月1日付昇進発令		
購買部 酪農生産指導室課長	購買部 酪農生産指導室課長代理	丹戸 靖
福岡支所 南九州事務所長代理	福岡支所 南九州事務所 副審査役	長谷川 和典
北福岡工場 総務課長代理	北福岡工場 総務課 副審査役	千葉 敦之

北海道 乳牛産地情報

平成28年2月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	36~42	▲	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計98.4%、累計で98.5%、苫小牧管内月計で101.2%、累計で100.6%の実績となっている。 2月の初妊牛動向は、例年、引き合いの強くなる4月~5月上旬の分娩腹が中心となりますが、資源が少なく、荷動きの早い状況の中で初妊牛価格はさらに強含みで推移するものと思われる。道内の育成牛価格も高騰しており、背景には、雌雄選別精液の利用はありますが、それ以上にF1付けの増加や和牛受精卵移植が増加しており、結果として、ホルは雄も雌も減少していることが挙げられる。
	初妊牛	62~68	▲	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~46	▲	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.5%、累計で102.5%、中標津管内月計で100.7%、累計で100.6%の実績となっている。 2月の初妊牛動向は、5月分娩腹が中心となる。道内外の大型牧場を中心に導入意欲が引き続き強い事と、地元の搾乳意欲も強い事から出回り頭数が減少しており、今後も相場は高値を維持すると思われる。初妊牛相場の高騰を受け、後継牛を確保しようという気持ちから雌雄選別精液腹の導入希望が急増しており資源は逼迫している。通常ホルス腹の導入もご検討ください。
	初妊牛	65~72	▲	
	経産牛	45~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~46	▲	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.6%、累計で104.3%の実績となっている。 2月の初妊牛動向は、4月中旬から5月中旬ごろにかけての分娩腹が荷動きの中心となる。また、腹内容としてはF1腹が最も多くなる予定。道内外の大型牧場の導入も多数あり、引合いはますます強くなるものと思われる。育成牛についても、1月の育成市場において生後9か月齢前後で50万円を超えて取引される育成牛も出てきており、育成牛価格も急激に高騰している。これを受けて、自家保留に向けた選別精液腹や通常ホル腹にも需要は集まり、初妊牛価格の全般的な底上げがあると見込まれる。
	初妊牛	65~72	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	38~45	▲	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.6%、累計で101.3%、北見管内月計で100.7%、累計で100.6%の実績となっている。 2月の初妊牛動向は4月~5月分娩腹中心となりますが、今年に入り道内農協の乳量増産、搾乳牛の更新指導なども有り販売頭数が減少している。更に、道内外大型牧場の導入状況は一層強くなっておりF1腹、雌雄選別腹は高値が予想され、3ヶ月先の分娩牛確保の動きもある。各市場動向を見ると頭数減、需要増により価格高騰は避けられないため、早めの注文での対応をお願い致します。
	初妊牛	65~70	▲	
	経産牛	45~50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	38~45	▲	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は101.7%、累計で101.7%の実績となっている。 2月の初妊牛動向は、全道的に高値で推移する見込み。道内各地域においては出回り頭数が減少している中で、道内外メガファームの新規導入などで、ここ最近では見られない価格帯での取引となっている。ホルス、F1の初生子牛や種付け前のホルス育成牛の高値等から考えれば、この先4月導入位までは相場の上昇も考えられ、かなり厳しい状況となりそうです。今後出回り頭数の関係上、荷動きも早くなると予想されますので早めの手配、導入をお願い致します。
	初妊牛	65~70	▲	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

お散歩…

今月の表紙は、「第6回酪農いきいきフォトコンテスト」(第44回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「お散歩…」(茨城県 外之内 加奈氏 撮影)です。色彩のコントラストから爽やかさが感じられ、子牛と女の子の軽快な足取りが目玉に留まる一枚です。



▼3月中旬から各地域で酪農発表大会が開催されます。皆さんお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。
 ▼会報に関するご意見・ご要望・投稿写真等があれば、以下のアドレスにメールをお願いいたします。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

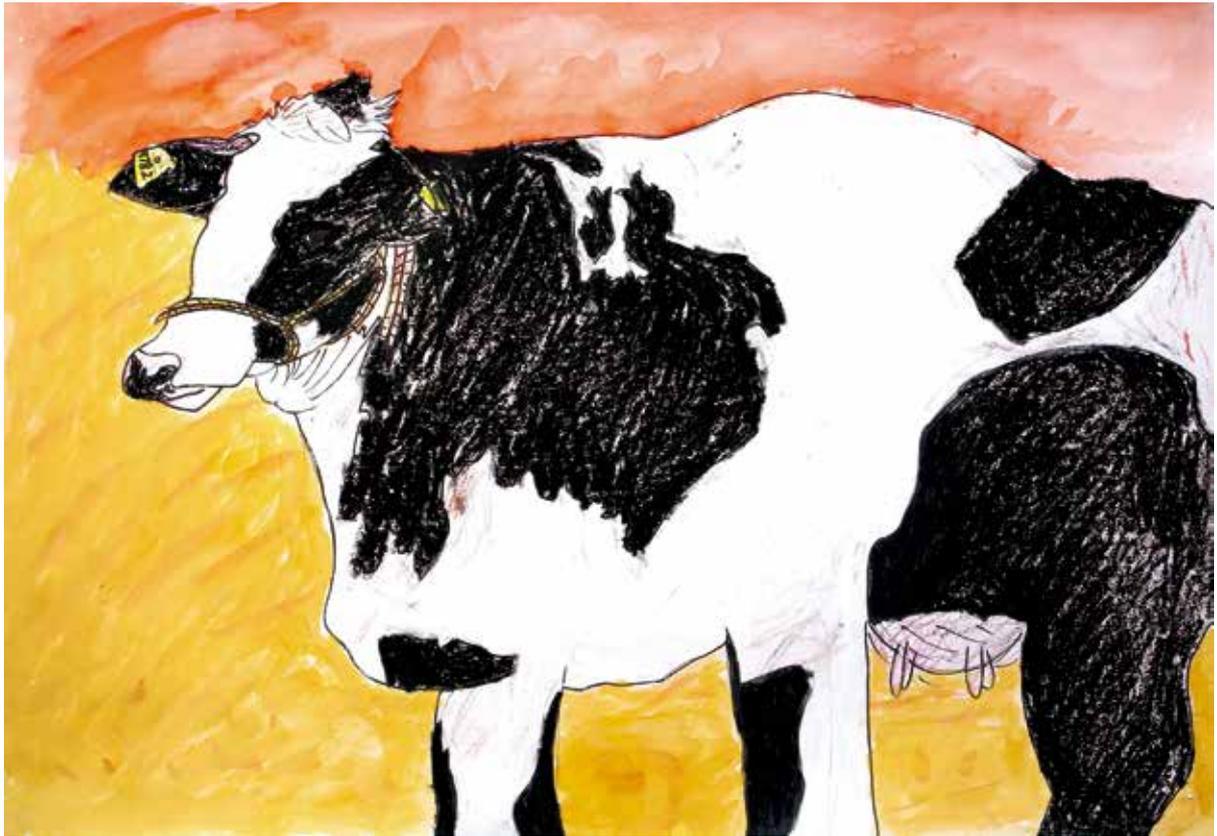
編集後記



平成28年2月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 2月号 No.605

●編集・発行人 大森 一幸
 ●発行 全国酪農協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
 http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品紹介

夕日にてらされる牛

那須塩原市立青木小学校(関甲信)2年 船山 菜翔



今月の入賞作品は、那須塩原市立青木小学校(関甲信)2年の船山 菜翔さんの作品です。牛さんの顔の骨格や首の皺などが丁寧に観察して描けています。とてもかっこいい牛さんに仕上がっています。牛さんの体の大きさや夕日の入り方など画面構成もしっかりしています。

※この作品は本会与全国酪農青年女性会議共催の「第42回らくのうこどもギャラリー」で全国588点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議